



私のお気に入りの花菖蒲は「神楽獅子(かぐらじし)」です。

この「神楽獅子」は、肥後系の肥後古花に分類され、写真の通り花被片がひねったように咲いている獅子咲きが特徴の、濃い紅紫色の花菖蒲です。

肥後系の特徴として、見応えのある豪華な大輪花に、紫色を基本とした気品のある花菖蒲であることが挙げられます。また、肥後系は戦後の花菖蒲の主流となった系統でもあり、昔から鉢植えで栽培され、開花期になると座敷に置いて金屏風を背にして、殿様などが鑑賞するのを楽しんできました。

私がこの「神楽獅子」を気に入った理由は、気品を感じる凛とした濃い紅紫色に、獅子咲きで咲き乱れている姿に魅了されたからです。

中心部で小さく立っている花柱枝を覆い隠すかのように、花被片は大きくひねるように咲いており、花全体を大きく魅せています。そのため、この「神楽獅子」はその場に一つだけ咲いていたとしても、周囲の視線を釘付けにさせるような存在感やオーラを放っています。

また、開花時期が6月下旬で私の誕生日に近いこともあり、誕生日に合わせて開花させることができるのではないかと思った点も、魅了された理由の一つです。

この「神楽獅子」を育成した西田信常氏は、肥後系の花菖蒲の普及に大いに貢献した人物として有名であり、育成した肥後系の花菖蒲の中でもこの「神楽獅子」は快心の傑作品種とされています。

そんな「神楽獅子」を是非ともこの目で鑑賞したいを思いました。